



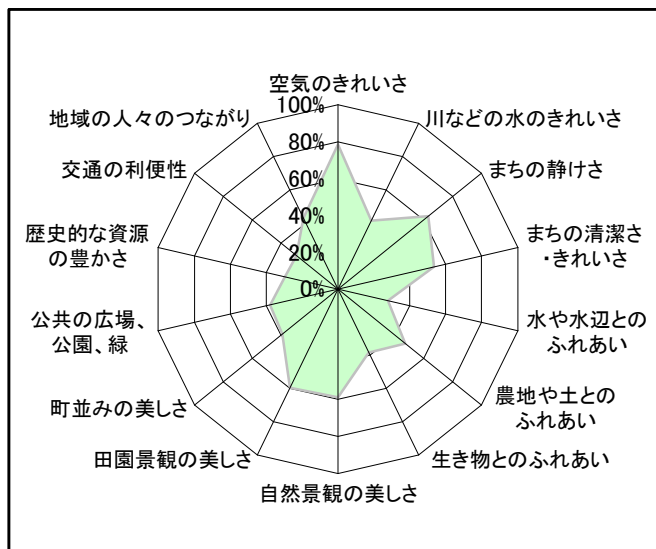
第5節 環境に対する市民の意識

本計画の策定にあたって、市民・事業者に対するアンケート調査や地区の声を聞く会（地区別環境ワークショップ）を実施しました。市民の多くが、本市の環境を特徴づける空気のきれいさや田園景観、身近に流れる川などを、大切な環境として認識していることがわかりました。

1 身の回りの環境に対する満足度

- ・ 市民アンケート調査によると、満足度（「満足」、「ほぼ満足」の合計）が最も高かったのは「空気のきれいさ」で、約78%でした。
- ・ 次いで、「まちの静けさ」（約63%）や「田園景観の美しさ」（約59%）、「自然景観の美しさ」（約59%）等の満足度が比較的高くなっています。
- ・ 最も満足度が低かったのは「水や水辺とのふれあい」で約28%となりました。
- ・ 「交通の利便性」（約29%）、「歴史的な資源の豊かさ」（約30%）なども、満足度は低い状況です。

身の回りの環境の満足度



※平成22年に実施した市民アンケート結果より、「満足」「ほぼ満足」「どちらともいえない」「やや不満」「不満」「わからない」「無回答」のうち「満足」「ほぼ満足」と回答した人の割合。

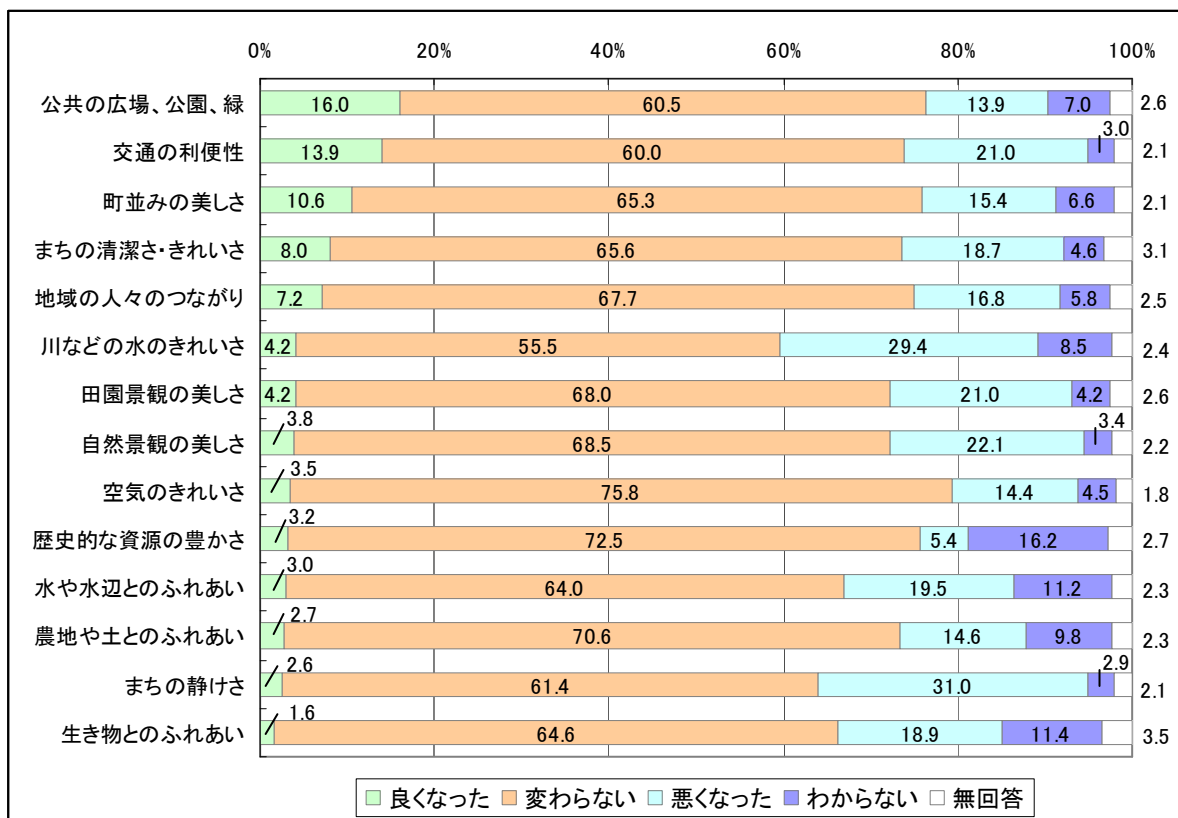
2 身の回りの環境の変化に対する認識

- ・ 市民アンケート調査によると、10年前と比較した身の回りの環境の変化については、全ての項目で「変わらない」との回答が最も多く、過去10年間で身の回りの環境はあまり変わっていないと感じている市民が多いことがうかがえます。

その中で、「良くなった」との回答が比較的多かったのは、「公共の広場、公園、緑」（約16%）、「交通の利便性」（約14%）でした。

また、「悪くなった」との回答が比較的多かったのは、「まちの静けさ」（約31%）、「川などの水のきれいさ」（約29%）でした。

10 年前と比較した環境の変化



3 日常生活や日常業務における環境配慮の取り組み

【市民の日常生活における取り組み】

- ・ 市民アンケート調査によると、日常生活における環境配慮の取り組みとしては、「ごみと資源物の分別」、「ポイ捨てはしない」がそれぞれ約 94%と高い実施率となっていますが、いずれも市民が遵守すべきルールであり、取り組みの徹底が課題と言えます。
- ・ 「マイバッグの持参」（約 90%）、「水道の水を出しっぱなしにしない」（約 90%）などの実施率も高くなっています。
 一方、「太陽光発電を行っている」（約 8%）や「エコカー（ハイブリッド車等）を購入している」（約 15%）などの経済的負担を伴う取り組みについての実施率は低くなっています。

【事業者の日常業務における取り組み】

- ・ 事業者アンケート調査によると、日常業務における環境配慮の取り組みとしては、「ごみと資源物の分別」（約 91%）、「産業廃棄物の適正処理」（約 80%）が高い実施率となっていますが、いずれも遵守すべきルールであり、取り組みの徹底が課題と言えます。
- ・ 「事務用品の再生品の利用」（約 77%）、「電気使用量削減の取り組み」（約 76%）など、日常的な経費の削減につながる取り組みの実施率も比較的高くなっています。
 一方、「マイカー通勤の場合の相乗りの奨励」（約 5%）、「マイカー通勤の自粛」（約 7%）の実施率は低いものとなりました。

こうしたことの背景には、公共交通機関の利便性が十分でないことや、事業所において、こうした取り組みが十分に浸透していないことが考えられます。

- ・ 「省エネ設備・機器等の選択・導入」のように設備の更新時等に合わせて行える取り組みについては、約48%の事業者が実施していますが、「太陽光発電の導入」（約11%）など、追加的な経済的負担を伴う取り組みについての実施率は低くなっています。

4 東広島市が今後重視すべき取り組みや環境施策についての意見

- ・ 環境に関する市民・事業者アンケートでは、本市が今後重視すべき取り組みや環境施策について、28の設問項目を設けて、その重要度について尋ねました。

【市民の意見】

- ・ 重要度の高い順にみると、特に重要な取り組みと考えられているのは、「ごみの散乱・不法投棄対策」（約93%：「重要」、「どちらかといえば重要」の合計（以下同じ））、「水を汚さない対策」（約92%）、「ごみ処理対策」（約91%）などです。

また、「公共交通機関対策」（約88%）や「空気を汚さない対策」（約85%）、「公園や緑地の整備」（約85%）、「森林・農地の保全」（約84%）、「豊かな自然環境の保全」（約83%）、「河川等の水辺の保全」（約80%）なども重要と考えられています。

一方、重要度の低い順にみると、「家庭用ごみ袋の有料化」（約52%）や「農林水産業や自然などの地域資源を活かした体験型観光の推進」（約55%）、「環境に配慮した商品の購入の促進」（約62%）となりました。

なお、「家庭用ごみ袋の有料化」については、既に指定袋制度が導入されていることもあり、ごみ処理費用を含めた「有料化」が実施されていると認識している市民も多いものと考えられます。

【事業者の意見】

- ・ 重要度の高い順にみると、重要な取り組みと考えられているのは、「ごみの散乱・不法投棄対策」（約89%）、「廃棄物の減量・再資源化・適正処理」（約89%）、「生活排水対策」（約88%）、「河川等の水辺の保全」（約85%）、「豊かな自然環境の保全」（約85%）などです。

一方、重要度の低い順にみると、「農林水産業や自然などの地域資源を活かした体験型観光の推進」（約50%）、「家庭用ごみ袋の有料化」（約56%）や「騒音・振動対策」（約58%）、「大気汚染対策」（約62%）となりました。

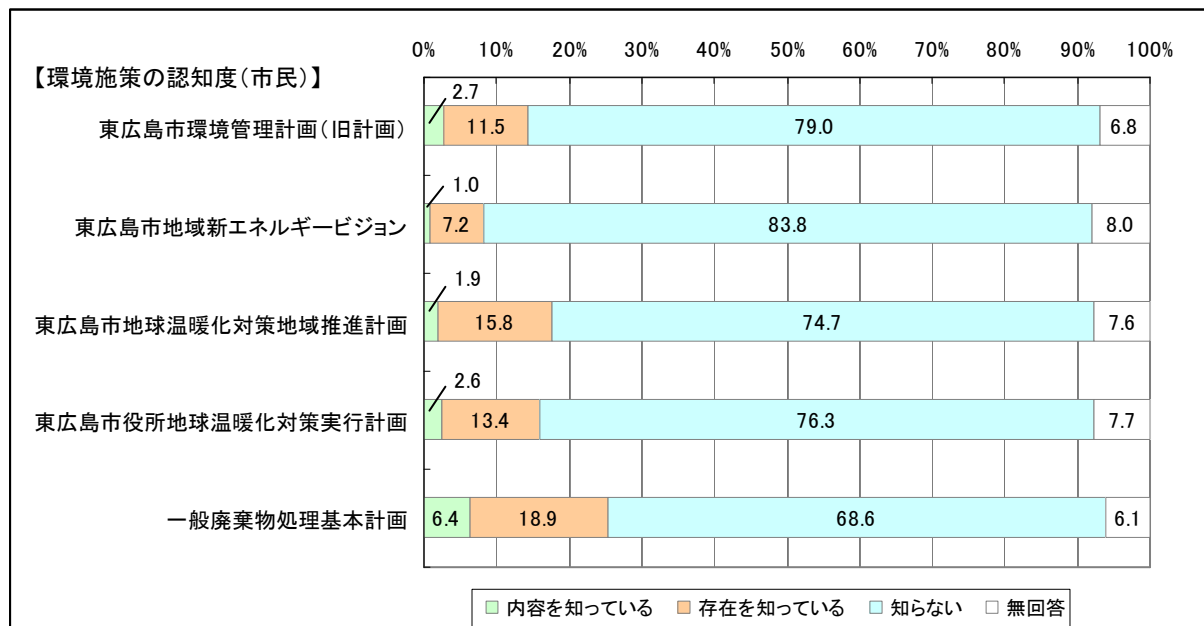
なお、「大気汚染対策」の重要性については、市民の方が事業者と比べて約23ポイント高くなっており、認識に違いがみられました。

5 東広島市が実施してきた環境施策の認知度

- ・ 市民・事業者アンケートでは、本市がこれまで取り組んできた代表的な5つの環境施策である、「東広島市環境管理計画（旧計画）」、「東広島市地域新エネルギービジョン」、「東広島市地球温暖化対策地域推進計画」、「東広島市役所地球温暖化対策実行計画」、「一般廃棄物処理基本計画」についての認知度を尋ねました。
- ・ 5つの施策に関する認知度は、市民、事業者ともに総じて低い結果となりましたが、一般廃棄物処理基本計画については、他と比べて、やや高い認知度になりました。

- ・ 施策認知度が低い理由としては、市から市民、事業者に向けた施策の広報・周知・啓発等が不十分であることなどが考えられます。

東広島市の代表的な環境施策の認知度



6 身の回りの環境の魅力

- ・ 「地区の声を聞く会」では、それぞれの地区で次のような身の回りの環境の魅力があげられました。その一方で、共通する課題として「河川や水環境の悪化」、「森林や農地の荒廃」、「ごみの不法投棄や人々のモラルの低下」などがあげられました。

「地区の声を聞く会」であげられた、身の回りの環境の魅力

地 区	身の回りの環境の魅力
西 条	・ 黒瀬川 ・ 赤瓦の家屋と田園 ・ 酒蔵の町並み、プールバール
八本松	・ ため池（水鳥等の生息環境） ・ 田園風景 ・ 疱瘡神社、曾場が城跡、八十八石仏等の歴史的資源
志 和	・ 豊かな自然の緑 ・ 奥屋川等の河川 ・ ホタル ・ きれいな空気や川
高 屋	・ 造賀川 ・ ごみがなく清潔
黒 瀬	・ 周囲の山並み ・ 黒瀬川、乃美尾用水 ・ 野鳥が多い ・ 田園の景観 ・ きれいな空気、静かな環境
福 富	・ 豊かな緑（ブナ林、シャクナゲ群生） ・ 沼田川源流 ・ ホタルや貴重な生き物
豊 栄	・ 椋梨川 ・ 田園、農村の環境、景観 ・ 天神の石仏
河 内	・ きれいな水 ・ 地域独自の祭り ・ 竹林寺
安芸津	・ 森、海、川が全てある ・ 赤崎のジャガイモ畑の景観